

党市くらしの相談室長  
坂口多美子



今年も8月15日の終戦記念日がきました。もう二度と戦争はしないという誓いをあらたにするために、戦争と平和についてしっかりと考える日になりたいと思います。

今年の4月、高畑勲監督が亡くされましたが、わたしは小さいころから、高畑監督の「火垂るの墓」を観るたび、この映画から戦争の悲惨さ、平和の大切さを学んできたと思っています。

でも、高畑監督は、火垂るの墓について「反戦映画と評されるが、反戦映画が戦争を止めるものであるならば、この映画はそうした役には立たない」と仰っていたのに驚きました。

なぜかというところ、「ひどい目に遭った経験をいくらか伝えて、為政者が次の戦争を始めるときには『そういう目に遭わないため

戦争を止める絶対的な歯止めは憲法9条

学ぶべきことは戦争の悲惨さだけでなく、なぜ戦争が始まったのか、なぜ避けられなかったのかです。そして、いま私たちがいまやるべきことは、絶対的な歯止めとなる憲法9条を守りぬくことだと改めて感じました。(市議予定候補)

感情による戦争への忌避感が反戦につながらないと思つた理由は、安倍政権の戦争する国づくりへの動きと、この国が持つ「勝手に空気を読み、世間の動きには逆らわず、その流れに身を任せていく」という体質に危機感を抱いたからだ、ということも記されてありました。

「戦争をするのだ」というに決まってる。惨禍を繰り返したくないという切実な思いを利用して感情に訴えかけてくる」ということでした。



(奥村さんと共に頑張ります)

終戦記念日の思い

県会議員 奥村のり子の  
読者ニュース

2018年8月12日 第323号

——奥村のり子生活相談所——  
〒640-8212 和歌山市杉ノ馬場 1-11  
☎ & FAX 073-427-7121  
Eメール w-jcpken@naxnet.or.jp



高校時代がよみがえる夏です  
野球応援や広島への思い出

夏は高校時代のことがよみがえってくる季節です。今年の高校野球大会は100回を迎えます。ちょうど高校2年生(う)の時に春夏大会に連続出場し甲子園球場に応援していく機会が巡ってきました。何年たつても、その時の会場の熱気や声援が思い起こされます。何よりもみんなで心一つになつて勝利を願う経験はいまも生きています。

もう一つは人生で初めて広島原爆資料館に行った

のも、高校生の時です。このころ、私の学校では修学旅行がなく現地教育ということで広島行きが選ばれました。鮮烈な思い出になっています。その時から「この日本の国で何があつたのか知らなければいけない」と思うようになりました。若い人たちが少しでも歴史の真実に肌で触れることができるように支援を広げてゆきたいと思います。

(奥村のり子)



街角のあちこちにポスターが目立ちます。ポスター張りをしてくださった皆さんに感謝いたします。また、張らせて下さったみなさまにもお礼申し上げます。期待に応え、来年の統一選挙の勝利に向けいっそう頑張ります。

【お知らせ】  
今号日曜版は19日号と特大合併号で44ページです。したがって19日号の配達はありません。ご了承下さい。

核兵器の非人道性を訴える  
被爆者の悲願、必ず実現を

- 8月10日 市駅前・宇治交差点宣伝 会議  
11日 地域訪問 パーム前宣伝  
12日 選挙学校  
13日・14日 休み  
15日 終戦記念日宣伝  
16日 無料生活相談 地域訪問

「1945年8月6日に広島で、9日に長崎で、アメリカ軍が投下した原子爆弾のさく裂による強烈な光線と熱線、大量の放射線、爆風は人々の体を貫き、おびただしい命を奪いました。その日から73年。被爆者が自らのいたましい体験を語り、核兵器の非人道性を訴え続けてきたことが世界を動かし、昨年7月、史上初の核兵器禁止条約採択につながりました。ふたたび被爆者をつくらない、核兵器のない世界をという悲願を必ず実現するため、世論と運動をさらに強めるときです。

広島で14万人、長崎で7万4000人。原爆によってその年に亡くなった人々です。

熱線をあびた顔や体の皮膚がぶら下がり幽霊のような姿で壊滅した街を歩く人々の群れ、電車のつり革につかまっただま黒焦げになった人、死んだ赤子を背負い

軍の病院にかけこんで息絶えた母親、頭の骨が折れて父母を呼ぶ小学生の弟をみとった兄、崩れた家の下敷きになり火が迫るなか『はようにげんさい』と息子に叫んだ親…。

被爆者の証言ほど、核兵器の無差別的な残酷性を伝えるものはありません。「地獄」の中を生きのびた被爆者は重い病気に襲われ手術をくりかえし、結婚や就職の差別など生活の場面で人知れない苦難を受けてきました。被爆の影響が子や孫にまで及ぶことを心配しなければならぬほど、非人間性ははかりしれません。(8月6日付日刊赤旗「主張」欄の前半部分です)

7日付「赤旗」によると、広島市の被爆者7団体がアベ首相と懇談、「国連で核兵器禁止条約が成立したのに、日本はなぜサインしないのか」と迫りました。アベ首相は「核兵器禁止条約に一言もふれませんでした」「どこの国の首相なのか」との記事も載せています。(編集室)

リレートーク Relay talk リレートーク